

旭川市議会議員

笠木かおる通信

旭川市豊岡5条9丁目1番2号
TEL.FAX.0166-32-4863

kasagi@potato.hokkai.net

お元気ですか



春。土踏む力。

皆さま、こんにちは。笠木かおるです。春夏秋冬をサイクルに年4回発行してきた「かおる通信」。早いもので今回、50号の節目となりました。振り返ると、「お世話になったことの記録紙」だったようです。これからも感謝してご配布いたします。

旭川市議会議員 笠木かおる

百貨店の跡利用などを視察しました。



3月29日から3日間、群馬県前橋市、東京都稲城市、千葉県船橋市の3市を個人視察しました。

前橋市では西友デパート撤退後の跡利用を調査しました。同市では国の補助金などを使い、旧百貨店跡の土地・建物を買って公民館や子ども支援センターなど市施設として活用し、また、スーパーマーケットや福祉専門学校にテナントとして賃貸しています。旭川の丸井今井跡利用にむけて参考にしていきたいと思います。

稲城市では65歳以上の方々が参加する「介護支援ボランティア制度」について調査しました。この制度は、高齢者の方々が介護支援ボランティアに参加し、その対価としてポイントが付与され、その分、市から交付金が受けられる制度です。旭川市でも導入に向けて積極的に検討したいと思います。

船橋市では、平成19年に開設した動物愛護センターを視察しました。この施設では犬・ねこの致死処分を最大限減らすことに力を入れています。旭川市も今年度、動物愛護センターの実施設計を予定しており、おおいに参考にになりました。



総務常任委員長としてがんばっています。



総務常任委員長の任につき1年がたちました。総務常任委員会は、市役所全体の事務や総合政策を所管しており、この仕事が3期目の任期で最後の仕事となります。市民一人一人の声に耳を傾け、徹底して「市民の目線」での市役所づくりに努めていきます。

今年秋の開村120年事業や中心市街地活性化事業も総務常任委員会の所管です。先達が拓き、踏みしめてきた大地。人間のすごさ、「力」に学びながら、一生懸命にがんばっていきます。

皆様にパワーをいただきました。



地元の東旭川地区（中川希一会長）、千代田地区（森進会長）、愛宕地区（山谷司郎会長）、豊岡地区（坂本良作会長）の4つの地区後援会で2月に新年会を開いていただきました。



ご案内が十分に行き届かなかったにもかかわらず、地区役員の皆様を中心にのべ344名もの皆様にご出席いただきました。

東旭川では、多忙のなか西川将人市長も駆けつけてくださいました。

また、幼き頃からお世話になっている上兵村南5の山口源治さんが96歳のご高齢にもかかわらずとても元気にお顔をだしてくれました。千代田では、今年も鎌田新聞店の鎌田茂会長などが民謡をご披露くださいました。

愛宕では、ほとんどの地元町内会長ら公職者をご参加くださいました。



豊岡では故・信田兄一元市議会議員の奥様なども足を運んでくださいました。本当に多くの皆様に激励いただき、つどいでいただいたお声を自分のものとしてこの1年、3期目の任期を全うしていきます。

暴風被害を調査。



3月21日、旭川市内で最大風速が24m/sと、9年ぶりに記録を更新するという暴風が吹き荒れました。

この影響で、東旭川地区の62棟をはじめ、市内480の農家ハウスが被害にあい、私もその被害内容を調査しました。旭川市は農協と協力し被害額に対する補助金を支出することになりました。

第4期工業団地の整備に向けて懇談。



4月9日、第4期工業団地予定地（東旭川町日の出）の地権者でつくる工業団地促進期成会（石場勇会長）の方々と懇談会を開きました。懇談会には市側から立花経済観光部長ら5名が出席。地元からは井田友三東旭川中央地区市民委員会会長など14名が参加しました。

市は現在、積雪寒冷地に適したデーターセンターの誘致などに力を入れていますが残念ながらまだ、第4期造成のメドがたっていません。

地元からは、「造成着手までの間、一時的に別な土地利用を検討してほしい」などの強い要望がありました。

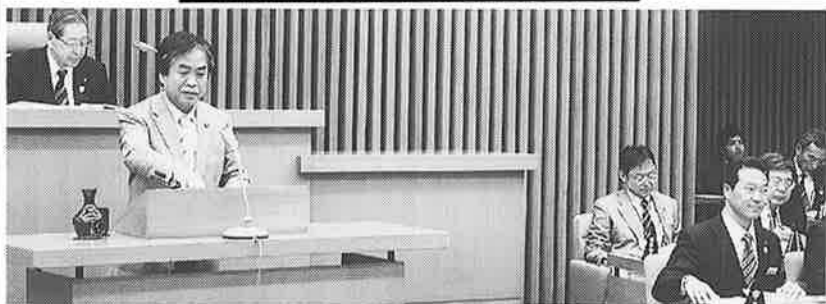
旭川市長・西川将人豊岡地区後援会発足のつどい

- とき 5月17日（月）午後6時より
- ところ JA あさひかわ農協豊岡支所（豊岡4-1）
- 会費 2000円（当日、会場受付でお支払いください）

是非、多くの皆様ご出席くだされば幸いです。

第1回定例会を報告します。

大綱質疑にたちました



新年度の予算を決める第1回定例会は2月22日に開会し、3月25日までの32日間の会期で開かれました。

新年度の一般会計予算は9年ぶりに前年度を上回り、92億円増の1535億円となりました。これは、国からの交付金や国庫支出金が増えたためでもあり、「地域主権」の新しい国づくりの新たな一歩ともいえます。

私は、本会議で大綱質疑にたち、22年度予算に対する西川市長の所見を大綱的にたしました。

以下、その要旨を報告します。



官民一体で丸井今井跡の再生を

- (笠木) 丸井今井閉店後、再利用に向けた状況はどうなっているか。
- (答弁) 現在、(株)北海道建物が丸井今井及び債権者側の窓口となって複数の事業者と売却の交渉を行っている。
- (笠木) 再生にむけた「官民一体体制」による決意と行動が大切ではないか。
- (答弁) 旧丸井今井建物の活用も視野に入れて中心市街地活性化の基本計画づくりをすすめていく。

【解説】丸井今井跡の売却は入札が不調に終わるなど、まだ再生の見通しがたっていません。間違いや手遅れは、都心の機能不全を起こしかねず、私は街を愛する精神と地元の商魂で「官民あげて」再生に向かう時と訴えています。



最低制限価格の引き上げ

- (笠木) 企業の経営体力の維持、下請けや労働条件のしわ寄せ解消のためにも、公共工事や委託事業の最低制限価格引き上げが必要ではないか。
- (答弁) 建設工事や清掃などの委託業務について、新年度から最低制限価格の引き上げを行う。

【解説】採算どがえしの行き過ぎた低価格競争を防止するため、新年度から本市公共事業の最低制限価格を引き上げるようになりました。

生活保護世帯の自立支援

- (笠木) 生活保護世帯の経済的自立支援対策が必要だ。
- (答弁) 適職に就き収入が得られるよう一層の経済的自立にむけた支援を行う。
- (笠木) 保護世帯の子どもたちの進路状況はどうなっているか。
- (答弁) 21年度卒業の保護世帯の中学生は166人で、高校進学や就職などで、97%の進路が決まっている。

【解説】本市の生活保護費は約200億円で、この内4分の1の約50億円が市民の税金です。制度に甘えてしまう市民への厳しい目線があるのも事実で、経済的自立支援対策がとても大切となっています。また、子どもたちへの「貧困の連鎖」の解消も大きな課題です。



高等養護学校誘致



- (笠木) 道立高等養護学校の誘致実現にむけて、国と道と市の3者による枠組みづくりが必要。市の積極的な対応が必要だ。
- (答弁) 国や道教委との連携・協議を強め、市としても学校施設の提供など最善の要件を提示していく。

【解説】誘致署名は10万人を超えました。「自宅から通いたい、通わせたい」という切なる願いをかなえるため全力をあげて誘致活動をすすめています。

このほか、財政の健全化や市立病院の経営と運営などについて質疑にたちましたが紙面の都合で割愛させていただきます。



強い子は、絶対にいじめなんかしない。

このほど、縁あってプロレス団体「ZERO-1」が取り組んでいる「いじめ撲滅活動」をお手伝いしました。

4月12日、同団体代表で日本一熱いレスラー、大谷晋二郎さんが、我が母校の旭川小学校と地域の愛宕小学校で講演、「一生懸命にがんばれば必ず夢や目標に近づける。親孝行できる子はいじめなんか絶対にしない」と熱い口調で子どもたちに訴えました。また、この日は東旭川町倉沼の昭法寺（伊藤孝義住職）でホームステイ。車座になって夜遅くまで子どもたちと交流しました。（写真）

翌日のリングでは元横綱・曙と組んでタッグマッチ。やられても、やられても立ち上がる「大谷」に大きな声援が沸いていました。

地域福祉の向上をめざして



3月27日、大雪乃蔵会議室で社会福祉法人旭川共生会（杉下政秀理事長）の理事会・評議員会を行い、新年度の事業計画・予算を決めました。地域のみなさんと一緒に「安心の街づくり」にがんばります。

1月から2月は、地域や職場の「新年会」などに本当に多くご参加いただきました。心から感謝します。これからも身近な議員とご評価いただけるように日々の活動を大切に歩みます。

（写真は全日通地域班新年会です）



旭川神社節分祭



今年も袴（かみしも）をまとい、旭川神社の「豆まきの儀」に参加しました。議員に当選後、平成12年から毎年奉納させていただいています。旭川神社の境内は幼き頃の絶好の遊び場でした。（笑）